

経営比較分析表（令和4年度決算）

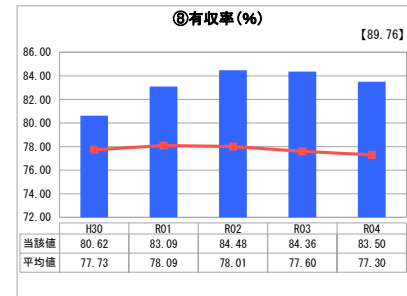
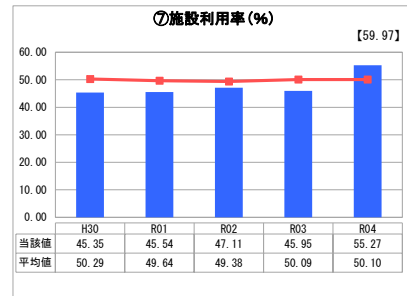
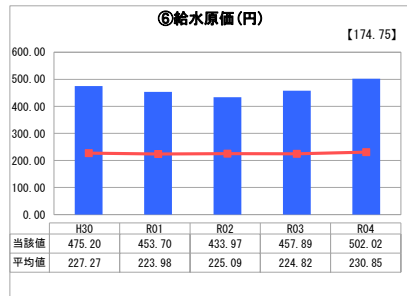
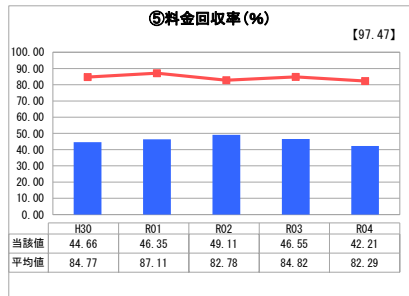
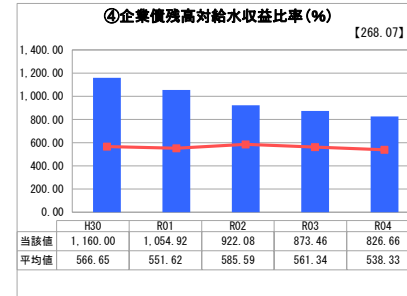
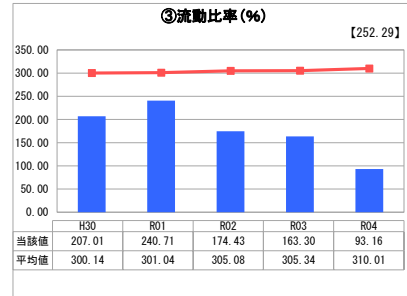
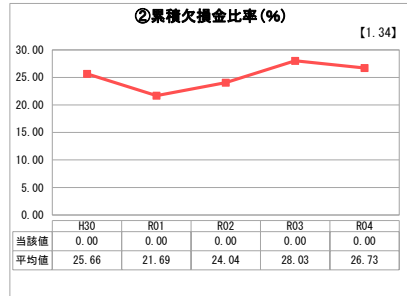
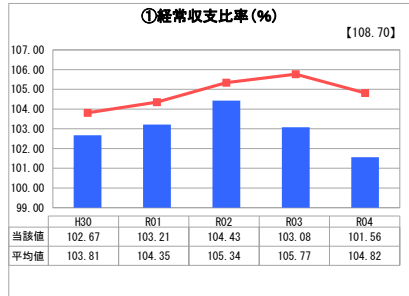
佐賀県 玄海町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	70.01	99.37	4,570	

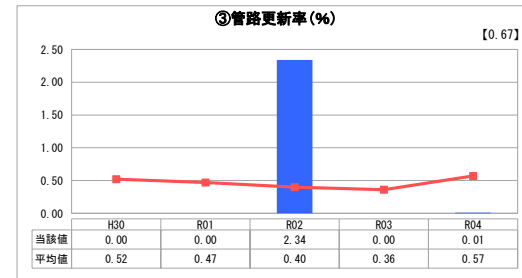
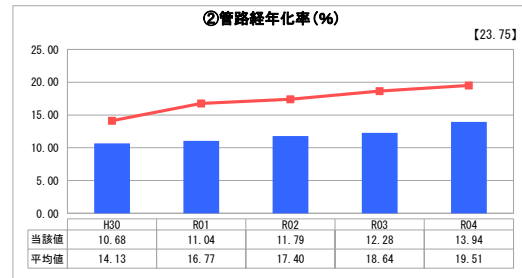
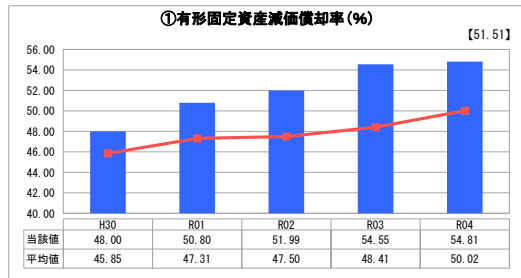
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,130	35.92	142.82
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,041	35.90	140.42

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

玄海町は、①経常収支比率は黒字となっているが、⑤料金回収率は類似団体平均値を大きく下回っている。これは、類似団体と比べ水道料金等の営業収益で費用を賄っておらず、一般会計からの繰出金によって不足分を補填しているという事である。また、⑥給水原価については、類似団体と比較し倍以上の値段になっている要因としては、山間部が多く、施設を必要とするため、電力料や薬品費等の維持管理にかかる費用が高くなっているためである。

③施設再編事業費がかなり大きく、過年度分損益勘定留保資金を多額に使用したため令和4年度の流動比率は100%を下回った。

④企業債比率については、新たに借入を行っていないため減少傾向にあるが、給水収益が低く類似団体より高い比率となっている。

⑦施設利用率が高くなったのは令和4年度から令和5年度にかけて施設の再編を行っており、水道施設数が減ったためであり、営業費用が減少することが期待される。

以上の事から本町の水道事業については、他会計補助金に依存しているという事が課題であり、給水原価の減少等に努め、料金回収率を向上させていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、類似団体の平均より高く、浄水場などの水道施設の老朽化が伺える。

②管路経年化率については、類似団体と比べ低い数値を保っており、法定耐用年数を超えた管路の保有は少ないと推測できる。

③管路更新率が令和2年度以降ほぼされていないのは、水道施設の再編を行っているためであり、今後は水道管の更新を行っていく予定としている。

全体総括

本町の経営状況は、一般会計からの繰出金に依存しており、給水収益のみでは水道事業の運営は厳しいのが現状である。

施設の統合によりこれまでより営業費用が抑えられることを期待するが、施設の老朽化や水道利用者の減による給水収益の減収は避けられず、時機を伺って料金改定を行う必要がある。